

2026年3月期第3四半期 決算概要

2026年2月13日
宝ホールディングス株式会社

1. 宝ホールディングス（連結）エグゼクティブサマリー
2. 宝ホールディングス（連結）業績
3. 宝酒造 業績
4. 宝酒造 営業利益増減分析＜対前期＞
5. 宝酒造インターナショナルグループ 業績
6. 宝酒造インターナショナルグループ 営業利益増減分析＜対前期＞
7. 宝酒造インターナショナルグループ 海外酒類事業 営業利益増減分析＜対前期＞
8. 宝酒造インターナショナルグループ 海外日本食材卸事業 営業利益増減分析＜対前期＞
9. 宝酒造インターナショナルグループ 主要子会社業績
10. タカラバイオグループ 業績

1.宝ホールディングス（連結）エグゼクティブサマリー

第3四半期累計業績

増収減益で推移

・ 売上高（増収）

宝酒造インターナショナルグループが、海外酒類事業の好調な業績推移に加え、海外日本食材卸事業のM&A効果も寄与したことで増収となり、全体を牽引した。一方、宝酒造は焼酎などが減少、タカラバイオグループはライフサイエンス研究市場の低迷が続いた影響を受け、それぞれ減収となった。

・ 営業利益（減益）

宝酒造は、広告宣伝費など販売費及び一般販管費の効率的な使用に努めた結果、増益となった。また、宝酒造インターナショナルグループでは、販売費及び一般管理費が増加した海外日本食材卸事業が減益となるが、海外酒類事業が好調に推移し、全体でも増益となった。一方、タカラバイオグループでは、売上高の減少に加え、売上構成の変化などによって売上原価率が上昇し、売上総利益が減少した。さらに、M&A費用など販売費及び一般管理費が増加した結果、営業損失となった。

・ 親会社株主に帰属する四半期純利益（減益）

政策保有株式の売却などによる特別利益があったものの、第2四半期に計上したタカラバイオグループにおける減損損失などにより、減益となった。

今後の見通し

- ・ 2025年11月時点での予想の達成を見込む。
- ・ 配当については、2025年5月発表予想からの変更なし。

2.宝ホールディングス（連結） 業績

(百万円)

	2026年3月期 第3四半期 実績	前期比	
		増減	率 (%)
売上高	291,529	24,593	+ 9.2
売上総利益	94,241	6,717	+ 7.7
営業利益	12,632	▲ 2,277	▲ 15.3
経常利益	12,555	▲ 3,510	▲ 21.8
親会社株主に 帰属する 四半期純利益	10,557	▲ 2,445	▲ 18.8
	2026年3月期 第3四半期 実績	2025年3月期 第3四半期 実績	
海外売上高比率 (タカラバイオグループ除く)	61.5% (60.6%)	57.6% (55.8%)	

3.宝酒造 業績

(百万円)

			2026年3月期 第3四半期 実績	前期比	
				増減	率 (%)
宝酒造	焼酎		23,437	▲ 1,867	▲ 7.4
	清酒		8,727	39	+0.5
	ソフトアルコール飲料		33,941	835	+2.5
	その他酒類		3,477	▲ 602	▲ 14.8
	本みりん		7,944	2	+0.0
	その他調味料		7,428	99	+1.4
	原料用アルコール等		8,345	▲ 334	▲ 3.9
	売上高		93,303	▲ 1,828	▲ 1.9
	売上総利益		24,448	▲ 172	▲ 0.7
	営業利益		5,798	448	+8.4
	経常利益		5,703	163	+3.0
	四半期純利益		3,870	▲ 219	▲ 5.4

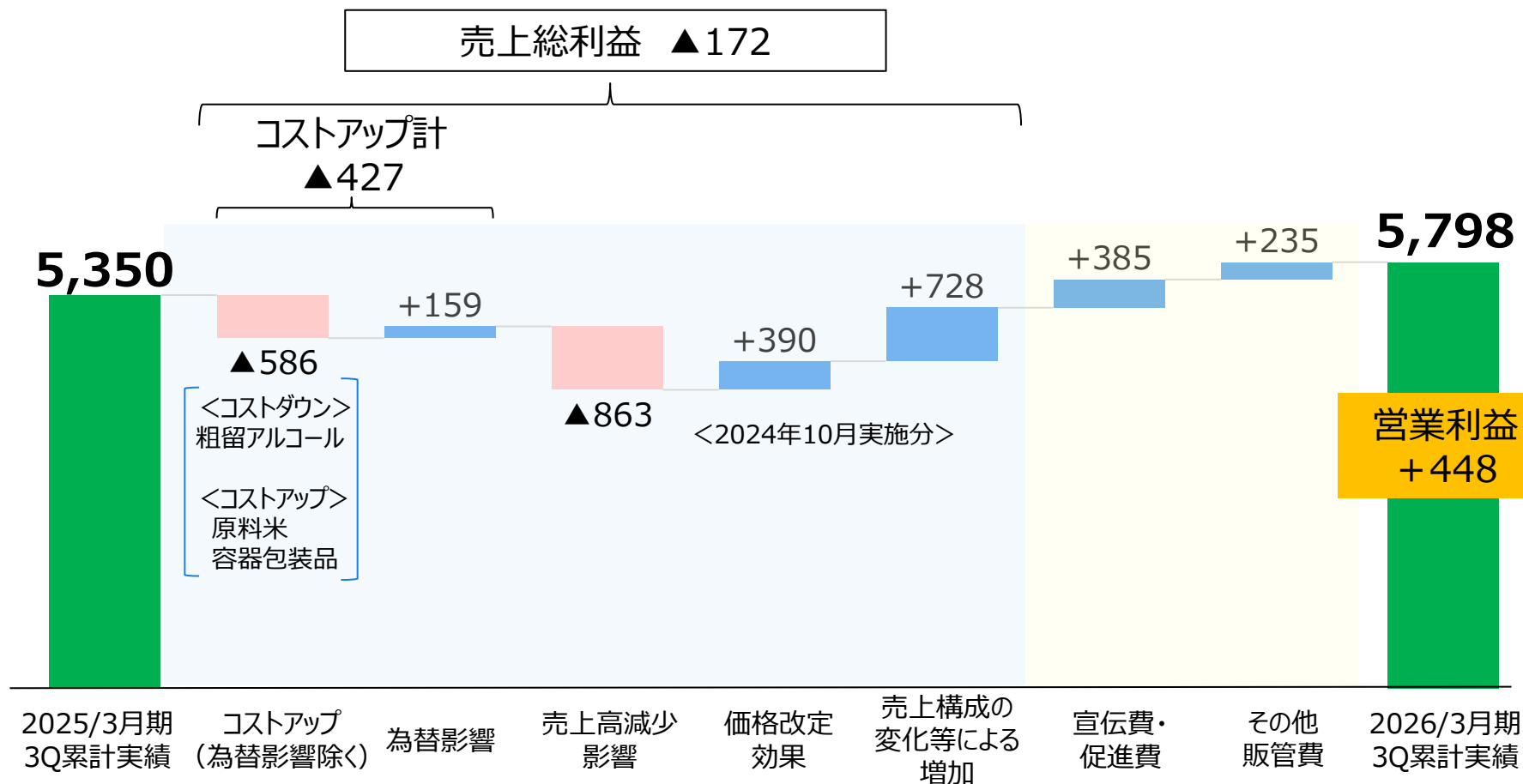
概要

- ・売上高 : 特に焼酎の減少により、減収
当社が2024年10月に焼酎、清酒、ソフトアルコール飲料を中心に価格改定を実施し、焼酎については競合他社との価格差が拡大したことから、販売数量が減少
一方、ソフトアルコール飲料は2025年4月、清酒は同年10月に競合他社も価格改定を実施したことで価格差が縮小し、いずれも前年を上回って推移
- ・売上総利益 : 価格改定効果や売上構成の変化等による増加要因があったものの、売上高の減少影響や、原料米および容器包装品のコストアップを受け、減少
- ・営業利益 : 販売費及び一般管理費の効率的な使用に努め、増益

4.宝酒造 営業利益増減分析 <対前期>

原料米や容器包装品のコストアップや、売上高の減少影響があり、価格改定効果や売上構成の変化等による増加があったものの、売上総利益が減少。宣伝費・促進費や、その他販管費の減少により、増益

◇対前期営業利益増減分析（利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円）



5.宝酒造インターナショナルグループ 業績

(百万円)

		2026年3月期 第3四半期 実績	前期比		
			増減	率 (%)	
宝酒造 インターナショナル グループ	売上高	160,017	26,700	+ 20.0	
	売上総利益	52,069	8,588	+ 19.8	
	営業利益	9,762	390	+ 4.2	
	うち 海外酒類事業	売上高	20,175	3,041	+ 17.8
		売上総利益	10,908	3,168	+ 40.9
		営業利益	8,707	3,530	+ 68.2
	うち 海外日本食材卸 事業	売上高	141,807	23,774	+ 20.1
		売上総利益	41,172	5,442	+ 15.2
		営業利益	2,320	▲ 2,950	▲ 56.0
宝酒造 インターナショナル グループ	経常利益	9,033	▲ 282	▲ 3.0	
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	5,631	▲ 197	▲ 3.4	

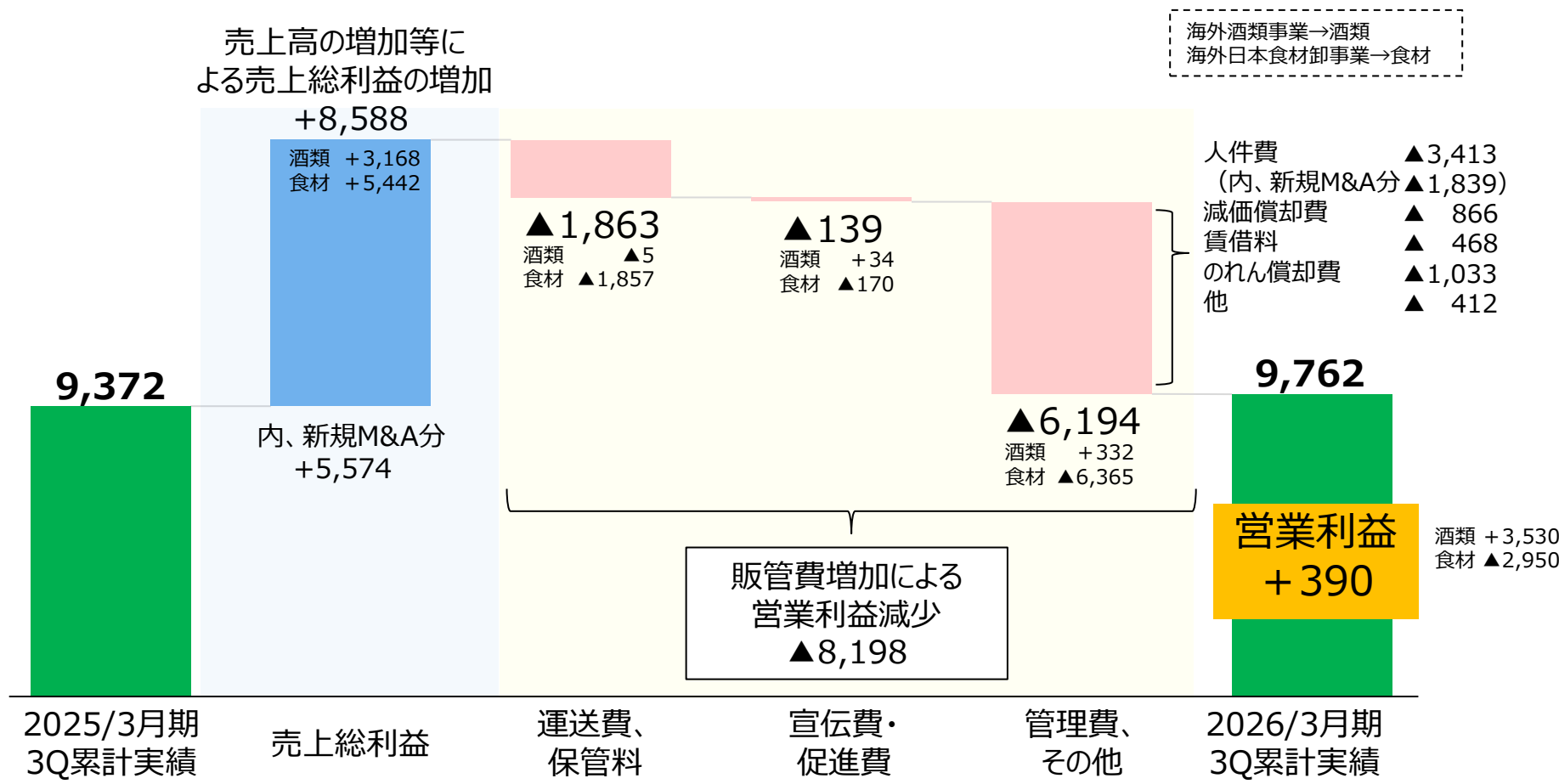
概要

- ・売上高 : 海外酒類事業は好調なエイジ・インターナショナル社が牽引、海外日本食材卸事業は前期に実施したM&A効果もあり、全体で増収
- ・売上総利益 : 海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに売上高の増加に伴い、増加
- ・営業利益 : 海外酒類事業がエイジ・インターナショナル社における価格改定効果や売上構成の変化などにより好調に推移したことでプラスとなり、全体でも増益
一方、海外日本食材卸事業では、人員増や単価上昇などに伴う人件費の増加をはじめ、拠点拡大に伴う倉庫料の増加などにより、販売費及び一般管理費が増加したことで減益

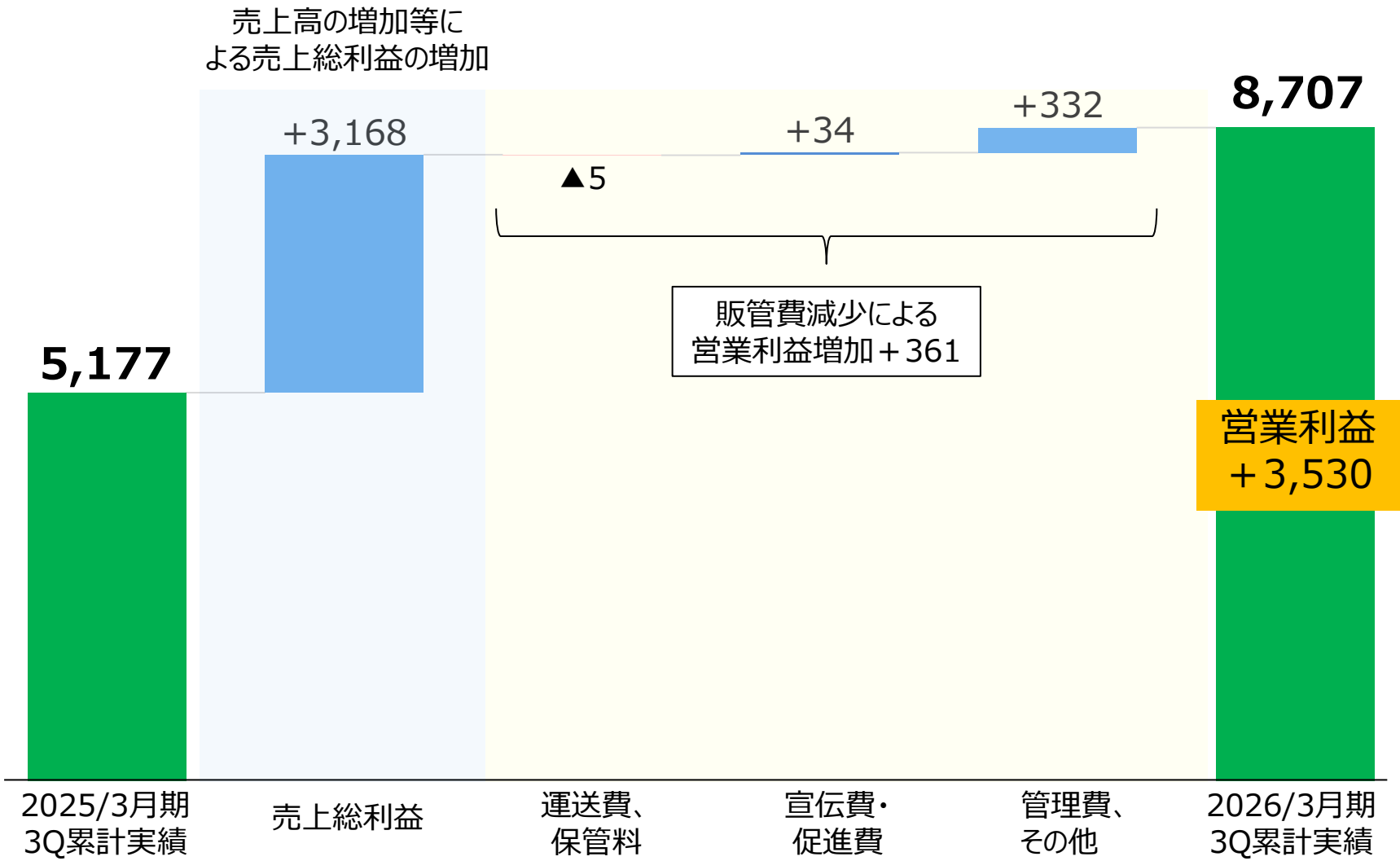
6.宝酒造インターナショナルグループ 営業利益増減分析 <対前期>

海外酒類事業、海外日本食材卸事業ともに売上総利益が増加し、海外日本食材卸事業では、人件費など販管費が増加することで減益となるが、海外酒類事業のエイジ・インターナショナル社の牽引により、全体で増益

◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)

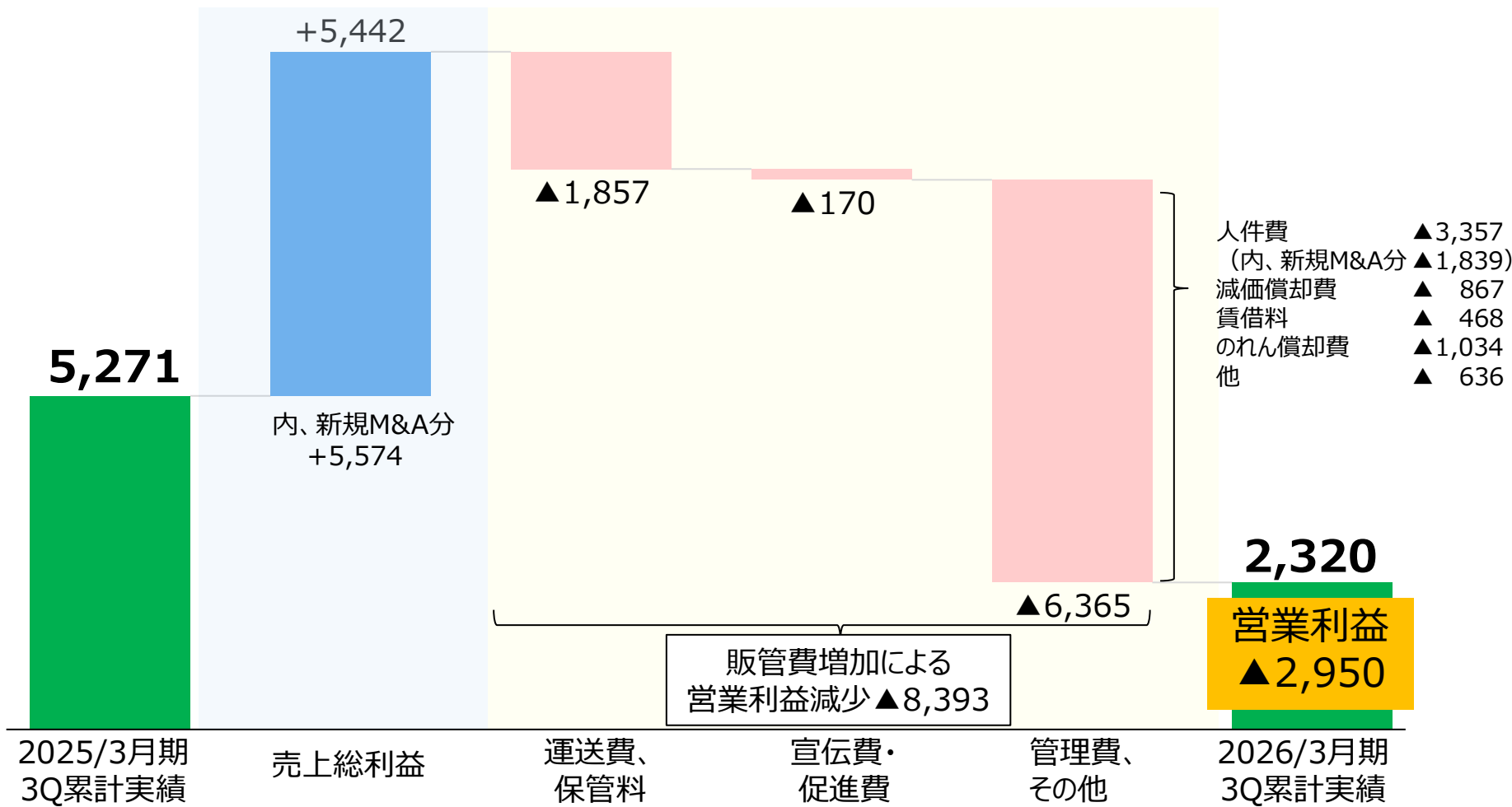


◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)



◇対前期営業利益増減分析 (利益の増加要因を「+」、減少要因を「▲」で表示、単位：百万円)

売上高の増加等による売上総利益の増加



9.宝酒造インターナショナルグループ 主要子会社業績

		売上高			営業利益		
		2026年3月期 第3四半期 実績	前期比		2026年3月期 第3四半期 実績	前期比	
			増減	率 (%)		増減	率 (%)
米国宝酒造	千USドル	32,850	▲838	▲ 2.5	4,454	+311	+ 7.5
	百万円	4,864	▲237	▲ 4.7	659	+32	+ 5.1
宝酒造食品 (中国)	千元	31,478	+846	+ 2.8	▲ 1,580	+416	—
	百万円	645	+2	+ 0.4	▲ 32	+9	—
トマーチン (英国)	千ポンド	13,405	▲4,182	▲ 23.8	5,047	+154	+ 3.2
	百万円	2,610	▲788	▲ 23.2	982	+37	+ 3.9
IJB・インターナショナル (米国)	千USドル	75,706	+27,441	+ 56.9	48,793	+23,608	+ 93.7
	百万円	11,211	+3,901	+ 53.4	7,225	+3,411	+ 89.4
フーデックス (欧州)	千ユーロ	126,414	+595	+ 0.5	1,572	▲3,370	▲ 68.2
	百万円	20,945	+243	+ 1.2	260	▲552	▲ 68.0
コミンポート (欧州)	千ユーロ	76,592	+3,522	+ 4.8	6,096	▲1,556	▲ 20.3
	百万円	12,690	+667	+ 5.6	1,010	▲249	▲ 19.8
カーゲラー社 (欧州)	千ユーロ	78,739	+78,739	—	6,119	+6,119	—
	百万円	13,046	+13,046	—	1,013	+1,013	—
タザキフーズ (英国)	千ポンド	81,719	+23,584	+ 40.6	1,122	▲1,750	▲ 60.9
	百万円	15,915	+4,678	+ 41.6	218	▲336	▲ 60.6
ミューチャルトレーディング (米国)	千USドル	487,509	+42,267	+ 9.5	8,559	▲9,285	▲ 52.0
	百万円	72,195	+4,763	+ 7.1	1,267	▲1,435	▲ 53.1
ニッポンフード (豪州)	千AUSドル	60,219	+7,986	+ 15.3	2,126	▲699	▲ 24.8
	百万円	5,713	+478	+ 9.1	201	▲81	▲ 28.8
東京共同貿易	百万円	14,627	+1,432	+ 10.9	589	▲51	▲ 8.0

10.タカラバイオグループ 業績

(百万円)

			前期比	
			増減	率 (%)
2026年3月期 第3四半期 実績				
タカラバイオ グループ	試薬	21,640	▲ 784	▲ 3.5
	機器	589	▲ 55	▲ 8.6
	受託	3,792	296	+ 8.5
	遺伝子医療	2,370	▲ 345	▲ 12.7
	売上高	28,392	▲ 889	▲ 3.0
	売上総利益	14,140	▲ 2,229	▲ 13.6
	営業利益	▲ 4,855	▲ 3,381	—
	経常利益	▲ 5,092	▲ 3,837	—
	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	▲ 9,619	▲ 8,240	—

概要

- ・売上高 : 受託が増加したものの、ライフサイエンス業界において、物価高等の影響による研究予算の縮減や、米国政府の方針による研究助成金の大幅削減などにより、産業界およびアカデミアにおける研究開発のアクティビティがさらに低下していることを受け、試薬、機器、遺伝子医療が減少し、全体でも減収
- ・売上総利益 : 売上構成の変化の影響などで売上原価率が上昇し、減益
- ・営業利益 : 売上総利益が減益となったことに加え、Curio社の買収に関する費用およびのれん償却費を計上したことなどで、販売費及び一般管理費が増加し、営業損失

将来見通しに関する注意事項

この資料中の当社および当社グループの現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点において入手可能な情報から得られた当社経営陣の判断に基づくものですが、重大なリスクや不確実性を含んでいる情報から得られた多くの仮定および考えに基づきなされたものであります。実際の業績は、さまざまな要素によりこれら予測とは大きく異なる結果となり得ることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与える要素には、経済情勢、特に消費動向、為替レートの変動、法律・行政制度の変化、競合会社の価格・製品戦略による圧力、当社の既存製品および新製品の販売力の低下、生産中断、当社の知的所有権に対する侵害、急速な技術革新、重大な訴訟における不利な判決等がありますが、業績に影響を与える要素はこれらに限定されるものではありません。

＜お問合せ先＞

宝ホールディングス株式会社

広報・IR部

E-Mail ir@takara.co.jp

TEL 075-241-5124